



探訪 長門のいしづみ ⑥

寺子屋の師匠

斎藤先生碑誌

仙崎・西覚寺にあるこの碑（いしづみ）は、江戸時代末期、瀬戸崎浦（仙崎）で寺子屋を開いていた斎藤弥吉郎翁の墓誌（業績などを墓石に刻した文）である。明治10年（1877）6月の建立。

碑文（文語文）は判読困難な部分もあるが、変体仮名を用いた美しい文字で刻まれている。文の作者は深川村出身の国学者、平田淳（号・涪溪）。書は門人の竹内量。碑文の概略

——斎藤翁は元萩藩主・毛利公に仕えた小忌人（神事に奉仕する人）である。文化9年（1812）16歳のとき、取次ぎなどをする下役人として出仕、以来31年間いろいろな役職を務めた。天保13年（1842）

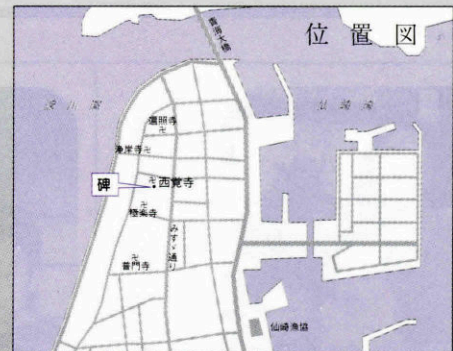


隠居し、単身、瀬戸崎に来て寺子屋を開いた。以来18年間、熱心に浦人の子らに読み書きを教え、教えた。子は60人以上を救えた。

文久3年（1863）翁は病のため萩へ帰ったが、慶応元年（1865）6月18日、66歳で世を去った。亡骸は萩・川嶋の善福寺の墓地に葬られた。教え子の親たちは翁から受けた恩恵が忘れられず、明治10年の13回忌にこの「いしづみ」を建てた。

浦人の依頼を受け、人々の翁に報いる心情を察してこの文を作り、終わりに歌を詠んで添えた。
とこしへに静の浦なみしづけくも
海出る月の顔ひたすらむ

*文の作者・平田淳は、江戸末期の藩内実態調査書『防長風土注進案』の編集に携わった人である。 碑誌＝碑文
(正)



(寄稿) 長門市郷土文化研究会

火の用心7つのポイント

- 1 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- 2 寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
- 3 天ぶらを揚げるときは、その場を離れない。
- 4 風の強いときは、たき火をしない。
- 5 子供には、マッチやライターで遊ばせない。
- 6 電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない。
- 7 ストープには、燃えやすいものを近づけない。

平成11年度
全国統一防火標語

「あぶないよ
ひとりぼっちにした
その火」



火災時の問い合わせは

☎2-1414

長門地区消防本部・中央消防署

☎2-3111